



114  
A2013

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入及歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度九月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

說明 本條第一項ハ年度期限ヲ定メ第二項ハ出納閉鎖ノ期限ヲ定ム

第二條 租稅其他一切ノ財源ヨリ收納スルモノ及收稅費其他一切ノ

經費トシテ仕拂フモノハ總テ一般ノ歳計ニ編入スヘシ

各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ノ仕拂ニ充テ又各年度ニ屬スヘキ收入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘ

大正十一年四月  
贈月

キ經費ノ仕拂ニ充ルコヲ得ス

說明 本條第一項ハ政府ノ歳入歳出ハ特ニ法律ヲ以テ取除カサレハ總テ毎年ノ豫算ニ編入スヘキヲ示シ第二項ハ年度所屬ノ混同ヲ禁ス

第三條 名義ノ如何ヲ問ハス法律ヲ以テ定メラレサル特別ノ資金ヲ所管スルヲ得ス又財産目錄ニ洩レタル備品及不動産ヲ所管スルヲ得ス

說明 本條ハ法律ノ許サ、ル資金ヲ置キ又ハ隱密ニ財産ヲ管理スルヲ禁ス

第四條 名義ノ如何ヲ問ハス法律ニ正條ナキ租稅賦役ヲ課スルコヲ得ス若シ之ニ違フモノアルトキハ刑法第二百九十條ヲ以テ論スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ其事務ヲ執行シタルモノ上官ノ命令ヲ受ルト

雖刑法第七十六條ノ例ヲ用ヒス

說明 本條ハ法律ノ許サ、ル民財ヲ徵收スルヲ禁シ其刑典ヲ示ス

## 第二章 豫算

第五條 各年度ニ於テ要スル所ノ政府ノ歳入及歳出ハ毎年帝國議會ニ於テ議決シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

歳入歳出ノ總豫算書ハ前年度十二月一日マテニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

說明 本條ハ歳計決定ノ法ヲ定メ豫算書提出ノ期ヲ示ス

第六條 政府ハ總豫算書ト共ニ左ノ書類ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

一 各省ノ豫定經費請求書

一 其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書

說明 本條ハ豫算書提出ノ際添付スヘキ書類ヲ定ム

第七條 豫算定額ノ到底避クヘカラサル不足ヲ補充スル爲メ左ノ二項ヲ置キ各特別ノ定額ヲ許可ス

- 一 法律ノ執行ヨリ生シタル義務ノ經費ヲ支辨スヘキ第一豫備金
- 一 豫期スルヲ得サル必要ノ經費ヲ支辨スヘキ第二豫備金

說明 本條ハ豫備費設置ノ法ヲ定ム

第八條 第一豫備金ノ支出ハ會計検査院ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムヘシ  
第一豫備金ヲ以テ支出スヘキ經費ハ毎年度總豫算書ニ附記シテ其種類ヲ示スヘシ

說明 本條ハ第一豫備金支出ノ法ヲ定ム

第九條 第二豫備金ヲ以テ支辨スヘキ費途ハ會計検査院ノ同意ヲ得

テ勅裁ヲ以テ之ヲ定メ次回ノ帝國議會開會ノ時直ニ之ヲ報告シテ其檢視ニ付スヘシ但帝國議會開會中ニアリテハ帝國議會ノ議ニ付シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

說明 本條ハ第二豫備金支出ノ法ヲ定ム

### 第三章 收入

第十條 各年度ノ歳入ハ現ニ有効ナル法律規則ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

第十一條 歳入金ヲ金庫ニ拂込ムトキハ金庫ハ其目的ヲ記入シタル別符附ノ領收證ヲ發スヘシ

右ノ領收證ハ拂込人ノ國庫ニ對スル義務ヲ解除スル證書トナルモノトス但右領收證ハ係リ官吏ニ於テ別符ヲ切離シ檢印ヲナスニア

ヲサレハ其効ヲ有セス

説明 本條ハ拂込金額收ノ手續及領收書ノ性質ヲ定ム

第十二條 金庫ニ拂込レタル金額ハ其名義ノ如何ニ拘ハラズ總テ國庫ノ計算ニ立テ國庫ノ帳簿ニ記入スヘシ

説明 本條ハ金庫ノ取扱ニ係ル金錢ハ總テ國庫ノ出納タルヲ明カニス

第十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納及一般豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ編入スヘシ但第二十三條ノ場合ハ此限ニアラス

説明 本條ハ豫算書ニ豫期セサルモノト雖モ總テ臨時ノ收入ハ一般ノ歳計ニ編入スヘキヲ示ス

第十四條 他ニ法律ヲ以テ定メタルモノ、外歳入未納金ノ全部又ハ一部分ノ棄捐若クハ延納許可ヲ要スルトキハ會計検査院ノ同意ヲ

得テ勅裁ヲ以テ之ヲ定メ翌年度ニ於テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

説明 本條ハ官金ノ棄捐及延納ノ法ヲ定ム

第十五條 歳入ノ徴收ヲ掌トル所ノ官吏ハ其故意過失怠惰ニ由リ徴收スヘキ歳入ニ不納ヲ生スルトキハ總テ私財ヲ以テ政府ノ損失トナリタル金額ヲ辨償スヘシ

説明 本條ハ歳入ヲ取扱フ官吏ノ責任ヲ定ム

#### 第四章 支出

第十六條 毎年度各省ノ經費ニ充ル所ノ定額ハ歳入豫算ニ定ムル所ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

説明 本條ハ經費ヲ支辨スル基金ノ出處ヲ定ム

第十七條 各省大臣ハ各省ノ爲メニ設ケラレタル各項ノ定額ニ超過

シテ經費ヲ使用スルヲ得ス

各省大臣ハ各省ノ爲メニ設ケラレタル經費ヲ其目的外ニ使用シ又ハ各項ノ定額ヲ彼是流用スルヲ得ス

各省大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ以テ經費ニ差繼キ使用スルコトヲ得ス

說明 本條ハ豫算決定ノ精神ニ違犯シ又ハ私ニ定額ヲ増加スルヲ禁ス

第十八條 各省大臣ハ歲出豫算定額又ハ臨時増額流用補充ノ許可ヲ得サル前ニ經費ノ支出トナルヘキ處分ヲナスヲ得ス

說明 本條ハ經費豫算ノ許可ヲ得ステ事業ヲナスヲ禁ス

第十九條 各省大臣ハ土地家屋ノ借入其他特ニ法律ヲ以テ許可セラレタル場合ノ外ハ一年度ノ外ニ涉リ經費ノ支出トナルヘキ契約ヲ

ナスヲ得ス

說明 本條ハ各廳ニ於テ恣ニ政府ノ負債トナルヘキ契約ヲナスヲ禁ス

第二十條 各省大臣ハ其所管經費ヲ使用スル爲メ國庫ニ向ツテ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

說明 本條ハ經費使用ノ法ヲ定ム

第二十一條 國庫ハ法律規則ニ反スル仕拂ノ命令ニ對シテ仕拂ヲナスヲ得ス

說明 本條ハ仕拂ノ法ヲ定ム

第二十二條 各省大臣ハ直接ニ政府ノ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂ノ命令ヲ發スルヲ得ス

左ノ諸項ニ係ル經費ハ關係ノ官吏ニ現金前渡ヲナスヘキ命令ヲ發

スルコトヲ得

十

第一 陸海軍隊及艦隊ニ屬スル必要止ヲ得サル經費

第二 在外各廳ノ經費

第三 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲナス經費

第四 運輸通信ノ便少ナキ内國ノ僻地ニ於テ仕拂ヲナス經費

第五 各官衙ノ廳中常用雜費ニシテ一ケ年ノ費額五百圓未滿ナ

ルモノ

第六 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第七 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但一理事官毎ニ三

千圓マテトス

説明 本條ハ命令發付ノ制限ヲ明ニス

第二十三條 法律規則ニ據リ前金渡概算渡線替拂ヲナシタル場合ニ

於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂タル經費ノ定額ニ戻シ入ルコトヲ得

説明 本條ハ定額ニ戻入ルヘキ返納金ノ種類ヲ定ム

第二十四條 經費支出ノ事務ヲ掌トル所ノ官吏ハ其故意過失怠惰ニ

由リ政府ノ損失ヲ生スルトキハ總テ私財ヲ以テ其金額ヲ辨償スヘシ

説明 本條ハ支出ノ事務ヲ取扱フ官吏ノ責任ヲ定ム

### 第五章 決算

第二十五條 各年度ニ於テ執行シタル歳入歳出ハ帝國議會ニ於テ議

決シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

歳入歳出ノ總決算書ハ會計検査院ノ検査ヲ經テ年度後二ケ年以内

ニ之ヲ帝國議會ノ通常會ニ提出スヘシ

十一

説明 本條ハ決算法ヲ定メ且ツ決算書提出ノ期限ヲ示ス

第二十六條 總決算書ニハ豫算書ト同一ノ區別ヲ立テ左ノ事項ノ計

算ヲ示スヘシ

歳入ノ部

一 歳入豫算額

一 四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ間ニ調定済トナリタル

歳入額

一 徴收済トナリタル歳入額

一 徴收未済トナリタル歳入額

歳出ノ部

一 歳出豫算定額及豫算決定後ニ修正追加シタル定額

一 四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ間ニ契約済トナリタル

歳出額

一 命令済トナリタル歳出額

一 仕拂済トナリタル歳出額

一 仕拂未済トナリタル歳出額

一 翌年度ヘ操越スヘキ歳出額

一 歳出残額

説明 本條ハ決算書ノ計算法ヲ示ス

第二十七條 政府ハ總決算書ト共ニ左ノ書類ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

一 各省決算報告書

一 官有財産計算書



説明 本條ハ決算書ニ添付スヘキ書類ヲ定ム

第二十八條 各年度ニ於テ歳入ニ殘餘アルトキハ其翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

説明 本條ハ歳入殘餘ノ處分ヲ定ム

第二十九條 一年度内ニ竣了スヘキ契約ヲナシタル請負工事ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メニ竣了遅延シ年度以内ニ債主ニ對シ支出ヲ了セサリシ經費定額ハ之ヲ翌年度マテ繰越スコトヲ得

説明 本條ハ工事費繰越ノ法ヲ定ム

第三十條 數年ヲ期シテ竣工スル工事ノ定額ハ毎年度ノ使用殘額ヲ竣工豫定ノ年度マテ順次繰越シ使用スルコトヲ得

説明 前條ニ同シ

第三十一條 各年度ニ於テ契約濟トナリタル經費ニシテ年度以内ニ支出ノ請求ナキ定額及年度後六ヶ月ヲ過キテ仕拂ノ請求ナキ金額ハ其所屬年度後五ヶ年度間順次翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

説明 本條ハ未請求ノ定額及基金繰越ノ法ヲ定ム

第三十二條 出納ノ閉鎖シタル年度ニ屬スル收入ヲ徵收シタルトキハ其徵收シタル現年度ノ歳入ニ編入スヘシ

説明 本條ハ出納閉鎖後納入金ノ編入ヲ示ス

第三十三條 政府ノ負債ニシテ其所屬年度經過後五ヶ年以内ニ債主ヨリ支出ノ請求ヲナサルモノ及仕拂ノ請求ヲナサルモノハ期滿失權トシテ政府ノ所得ニ歸スヘシ

特別ノ法律又ハ契約ニ據リ別ニ期滿失權ノ期限ヲ定メタルモノハ

各其定ムル所ニ據ル

説明 本條ハ期滿失權ノ法ヲ定ム

第三十四條 政府ノ所爲又ハ訴訟事件ニ妨ケラレ支出若クハ仕拂ノ請求ヲナス能ハサルトキハ前條ヲ適用セス但本條ノ事故終リタルトキハ其事故終リタル年度ヨリ起算シテ前條ニ據ル

説明 本條ハ前條ノ取除ヲ示ス

第三十五條 各債主ハ支出ヲ受クヘキ各省大臣ニ就キ其支出ノ請求ヲナシタル時日及證據トシテ出セル書類ヲ記シタル領收證ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

説明 本條ハ債主保護ノ方法ヲ定ム

第三十六條 第三十四條ニ據リ期滿失權トナラサル金額ハ其負債ノ

所屬年度經過後滿五ケ年ニ至レハ債主ノ權利ヲ存シテ之ヲ預金局ニ預ケ入レ以テ國庫ノ仕拂ヲ完結スヘシ

説明 本條ハ期滿失權トナラサル基金ノ處分法ヲ定ム

第三十七條 人民ヨリ政府ニ納ムヘキ收入金ニシテ其納ムヘキ相當年度ノ經過後五ケ年以内ニ納入ノ告知并ニ督促ヲ受ケサルモノハ納入ノ義務ヲ免ルモノトス但特別ノ法律ヲ以テ納入金ノ期滿得免ノ期限ヲ定メタルモノハ本條ニ據ルノ限ニアラス

説明 本條ハ收入金期滿得免ノ法ヲ定ム

## 第六章 取引

第三十八條 官有財産ノ賣却讓渡及交換ハ特別ノ法律ヲ以テ許可ス但永久ノ官有財産ト定メサル動産不動産ニ係ルモノハ此限ニアラス

説明 本條ハ不動産賣却ノ法ヲ定ム

十八

第三十九條 政府ノ收入又ハ經費トナルヘキ取引ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ據ルヲ得ヘシ

第一 一人ニテ專有スル物品ヲ買入又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ事情アルトキ要スル物品ヲ買入又ハ運送スルトキ但此場合ニ於テハ豫メ勅裁ヲ請フヘシ

第三 非常急遽ノ際工事及物品ノ買入借入運送ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ産出ノ場所又

ハ生産者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニアラサレハ爲シ得ヘカラサル美術工藝品及機械ヲ注文スルトキ

第六 土地家屋ヲ借入又ハ買入ル、ニ當リ特別ノ狀況ニ由リ競争ニ付シ難キトキ

第七 競争ニ付スルモ競争者ナキトキ又ハ競争者アルモ其價格政府ニ於テ豫定シタル制限ニ達セサルトキ但此場合ニ於テハ競争ニ付スル爲メ豫メ定メタル箇條及價格ノ制限ヲ變更シテ政府ノ利益ヲ傷フヲ得ス

第八 同一ノ契約者ニ對シ一年度五百圓ヲ超ヘサル所ノ取引ノ契約ヲナストキ

十九

第九 同一ノ契約者ニ對シ一年度見積價格二百圓ヲ超ヘサル所  
ノ不用ノ動産ヲ賣拂フトキ

第十 毎年ノ見積收入百圓ヲ超ヘサル所ノ土地家屋及他ノ不動  
産ヲ貸付年限六ケ年以内ニテ同一ノ契約者ニ貸付スルト

キ

第十一 行軍演習ノ爲メ損害ヲ與ヘタル作物等ヲ買入ル、トキ

第十二 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十三 試験ノ爲メニ耕作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十四 慈惠ノ爲メニ設立セル救育所ノ貧民ヲ傭役シ又ハ其生  
産物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十五 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ生産物品ヲ直接ニ買入ル、ト

キ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其生産物品  
ヲ買入ル、トキ

第十六 政府ノ設立ニ係ル農工業場ノ生産物品及囚徒ノ生産物  
品ヲ賣拂フトキ

第十七 貨幣金銀塊及爆發物ヲ運送スルトキ

説明 本條ハ賣買貸借等取引ニ係ル取扱法ヲ定ム

第四十條 取引ノ競争ニ加ハラントスルモノ及競争ニ據リ契約ヲナ  
スモノハ相當ノ資力ヲ有スルコトヲ證スルカ爲メ政府ニ於テ定メタ  
ル身元保證金ヲ納ムヘシ

説明 本條ハ取引ノ競争人及取引ノ締約人ノ身元保證ノ法ヲ定ム

第四十一條 官有ノ動産不動産ノ賣却代金ハ其年度ノ收入トシテ歲

入ニ編入スヘシ

説明 本條ハ官有物拂下代ノ編入法ヲ示ス

第四十二條 取引ヲナスニ當リテハ既濟ノ事業及既納ノ物品ニ對シ仕拂ヲナシ決シテ前拂ヲ行フヘカラス但第三十九條第十四項ノ場合若クハ信用確實ナル商人商社ノ習慣トシテ前金ヲ受取ラサレハ工事或ハ物品供給ヲ爲サ、ルモノト約定ヲナストキ若クハ軍艦兵器彈藥ノ製造ヲ注文スルトキハ此限ニアラス

説明 本條ハ前拂ヲ禁ス

### 第七章 會計官吏

第四十三條 政府ニ屬スル金錢ノ出納ヲ掌トル所ノ官吏ハ其取扱フ所ノ金錢ニ付テ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受ヘシ

説明 本條ハ現金取扱官吏ノ責任ヲ定ム

第四十四條 金錢ノ出納ヲ掌トル所ノ官吏其保管スル所ノ金錢ヲ失ヒ又ハ盜マレタル場合ト雖其保管上過失ナク相當ノ防衛ヲ盡シテ當リ難キ天災強奪ニ係リタル事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受ルニアラサレハ其負擔ノ責ヲ免ルヲ得ス

説明 本條ハ現金取扱官吏ノ責任ハ本文ノ場合ノ外免ルヘカラサルヲ示ス

第四十五條 政府ニ屬スル物品ノ出入ヲ掌トル所ノ官吏ハ其監守スル所ノ物品ニ付テ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受ヘシ

説明 本條ハ物品取扱官吏ノ責任ヲ定ム

第四十六條 仕拂命令官財務行政官ノ職務ハ金錢出納ノ職務ト兼行

スルヲ得ス

説明 本條ハ會計官吏ノ取締ヲ嚴ニス

第四十七條 歳入ノ徵收ヲ掌トリ若クハ經費支出ノ事務ヲ掌トル所ノ官吏ハ其取扱フ所ノ事務ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受ヘシ

説明 本條ハ會計ヲ處理スル官吏ノ責任ヲ定ム

第四十八條 金錢ノ出納ヲ掌トルモノハ毎年度各其管理スル所ノ會計事務ノ計算書ヲ調製シ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ  
物品ノ出入ヲ司トリ若クハ歳入ノ徵收ヲ掌トリ若クハ經費支出ノ事務ヲ掌トルモノ亦同シ

説明 本條ハ會計官吏ノ計算書提出ノ法ヲ定ム

第四十九條 金錢ノ出納物品ノ出入ヲ掌トルニ付キ身元保證金ヲ納

メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

保證金ヲ納ムヘキ官吏ハ行政規則ヲ以テ定メタル身元保證ノ手續ヲナシタル後ニアラサレハ其職ニ就クコトヲ得ス

説明 本條ハ會計官吏身元保證ノ法ヲ定ム

第五十條 第四十三條第四十五條第四十七條ニ據リ責任ヲ有スル官吏ノ財産ニ對シ政府ハ先取ノ權ヲ有ス

説明 本條ハ會計官吏ノ財産ニ對スル政府ノ特權ヲ定ム

## 第八章 雜則

第五十一條 事務ノ性質トシテ一般ノ歳計ニ編入セス特別ノ會計ヲ立ルヲ必要トスルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定メ其會計規則ハ勅令ヲ

以テ之ヲ定ム

説明 本條ハ特別會計ノ法ヲ示ス

第五十二條 一般ノ歲計ニ編入セサル特別資金收支ノ豫算決算ハ附録トシテ歲入歳出ノ豫算書決算書ニ掲クヘシ

右資金ノ出納ハ總テ國庫ノ計算ニ立テ且ツ會計検査院ノ検査ヲ受ヘシ

説明 本條ハ特別會計ト雖其計算ヲ公ニシ且ツ國庫ノ管理外ニ置クヘカラサル

ヲ示ス

第五十三條 金庫ノ取扱ハ期限ヲ定メテ之ヲ日本銀行ニ委託スルヲ得

説明 本條ハ現金ノ出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルヲ示ス

### 第九章 附則

第五十四條 本法ノ施行前ニ生シタル政府ノ負債義務消滅ノ期限及人民ヨリ政府ニ納ムヘキ收入金期滿得免ノ期限ハ特ニ本法施行ノ日ヨリ起算スヘシ但既ニ別段ノ法律規則ヲ以テ期限ノ算法ヲ定メタルモノハ此限ニアラス

説明 本條ハ政府及人民ノ負債義務消滅期限ノ起算法ヲ定ム

第五十五條 本法ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但帝國議會ニ關スル事項ハ其開設マテ樞密院ヲシテ之ニ代ラシムヘシ  
本法ト抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス





